2003年度　東京外語会　海外ツアー

モスクワ、サンクト・ペテルブルグ旅行記　9月1日～7日

大原　侠（M昭36）

9月1日　誰もが同じはやる気持ちでツアーの出発を待つ。「モスクワ、サンクト・ペテルブルグツアーの東京外語会の皆さん、お集まりください！」という旅行会社案内人の呼びかけはまことにすがすがしく皆の胸に響く。しかし、「出発は7時間遅れます。12時の予定が19時になるわけです。モスクワから飛行機が着かないものですから」と。2,400円の食券提供は多少のなぐさめだが、7時間は長すぎた。でも、解決策がない話には黙って従うだけだ、というヤケクソ大人の気分で旅は始まる。

聖ワシーリー寺院の前で

9月2日夜明け　モスクワは雨で寒かった。「毎日アメですよ。明日もキット。今年はアメばっかりなんですから」と空港に出迎えてくれたガイドは折りたたみ傘を片手に流暢な日本語で語る。雨は決してガイドのせいではないが、“折角来てくれたのに”と多少は気の毒そうな表情があってもいいのになぁ！と思うのは、不運を恨むこちらのひがみか？　ホテルのチェックイン、部屋割りや事務連絡の手早さ、ポーターの素早い動きには驚いた。実にスムース。「ヘェー、ロシアやるじゃない！」

9月2日　睡眠時間が少々足りなかっただけで、行動は予定通り。ここで、ウズベキスタンから現地JICA勤務の柳沢香枝さん（C昭55）とモスクワ留学中の斎藤優佳さん（R平14）が合流し、総勢24人となる。

まずは、定番、赤の広場と聖ワシーリー寺院へ。運よく雨ではないが、雲が低くどんよりとしている。寒い。近年になってストリートの名称が全部革命前に戻った話など聞きながら、車の渋滞のすごさに驚く。バスは動かないままだ。数年前のモスクワを知る人は皆驚く。ほとんどが日本とドイツの小型車。中心街の建物は、レンガや石作りで日本やアメリカのようにスクラップ・アンド・ビルドがないから、駐車場やガソリンスタンドもどこにあるのか。建物もよく見ると、まばらとはいえ、ウインド型クーラーが壁面から飛び出していて美観を損ねる。さあ、これからどうする、プーチンさん！

「赤は、昔からロシアでは“美や幸福の象徴”、共産主義の代名詞ではありません。“赤いサラファン”ご存知でしょう！」と、赤の広場の聖ワシーリー寺院解説から始まった解説で、私達は一気にソ連時代を飛び越えて中世に誘い込まれていく。幾本も色違いで並び立つネギ坊主の化けものみたいな寺院のてっぺん。キリスト教よりはアラビアンナイトのイメージだ。モスクワ大学の中央建造物を横目で眺めたあとは、予約時間になってクレムリンの中に入場。日本の皇居のように堀や高い壁で囲まれた中は、政府の執務エリアと寺院エリアとに分かれている。もちろん観光は寺院群エリアで、このうちの一つが「武器庫」という名の博物館である。帝政時代の昔、武器を作っていたのでその名がついたそうだが、展示物はロマノフ王朝のとんでもない贅沢品ばかり。共産政権時代でもスターリン以降になって一般公開されたそうだが、見に来る人々は革命の必然性・妥当性を感じたのか、いやここに来るような階層の人々は昔を懐かしんだのか。私見で申し訳ないが私はすぐあきた。

やたらに絢爛豪華というものは感激をもたらさない。

その夜は、外語会ロシア支部との懇親会。なんとモスクワには50名以上の同窓生が活躍中で、全員がロシア語科出身。その夜は30名以上の方々が出席され、非常に大規模な同窓懇親会となった。

9月3日　晴天に恵まれ、ロシア正教総本山で世界遺産にも登録されている「セルギエフ・ポサード」へ。広幅の道路はよく整備されており、左右には集合住宅団地が次々と続く。晴れた日の緑は美しい。さすがロシア！気分は昨日とは大違い。晴天にそびえる青、黄のネギ坊主塔は中世美の象徴のごとし。観光客も多いが、熱心に祈りを捧げる人々も多い。何か、私達の身近のキリスト教とはいささか違った中世に誘い込まれた感がする。「いま、ロシアにとって宗教は、麻薬なのですよ」というガイドさんの解説もいささかきびしいが、一時はオウムがあれだけ多くの信者を集めたのだから、さもあらんと思う。

帰途は、中流家庭訪問ということで、幾つかのグループに分かれて団地のボランティア家庭に立ち寄り、庶民生活の一端を垣間見る機会を得た。確かに、豊かにはなったのだろうが、3DKのそれぞれの部屋は狭かった。しかし、訪問家庭の人々はやさしく接してくれ、平凡な質問に正直にこたえてくれてうれしかった。

9月4日　モスクワ最終日の午前中はおみやげ屋。正直驚いた。4年前から品数が全く増えていない。ドイモイ後のベトナムの変化とは大違い。ただマトリョーシカの種類が増えたのが目立つだけ。石油だ、天然ガスだ、ということにうつつを抜かし、“チマチマ縫い物や木彫りなどやっておれるか”、ということだとすると、この国の本当の経済発展は期待できないと思う。中世のままだ。

9月5日　サンクト・ペテルブルグは、完全に中世西欧の都市のイメージで、落ち着いて美しい。日本からの留学生も芸術や文学を学ぶ人々の多くはここに集まるそうだ。

まずは、「エカテリーナ宮殿」見学。私には、宮殿よりもドイツ軍との戦いに財宝をどう守ったかの話に興味があった。その夜は、サンクト・ペテルブルグ総領事村松昭南氏（大外R昭41）と同総領事館勤務篠川志保さん（R平14）を囲んでの大阪・東京外大合同同窓会と相成り、ロシア民謡やダンスも入る楽しい一時となった。

サンクト・ペテルブルグで東京外語会と咲耶会の交歓会

9月6日　バルト海に面する「ピョートル大帝夏の宮殿」、そして圧巻は「エルミタージュ美術館」とたて続けに帝政ロシアの威力を示す絢爛豪華な建造物や美術品に接したが、正直なところ疲れた。キンピカ！キンピカ！当時の権威の象徴って本当にこんなことだったのだろうか。広大な緑の庭に出るとホッとする。

日本を熟知するガイドさんの話は面白い。「サンクト・ペテルブルグとモスクワのライバル意識は、大阪vs.東京のごときとは全然違います。ものすごいんですよ。」ロシアは広い。

9月7日　帰国のフライトでまたもめた。今度は何時間のロスだか忘れたが、“やっぱりこれがロシアか”の思いを後に楽しい旅を終えた。旅の一部始終、同行していただき、いろいろと教えていただいたり、ご助力いただいた斎藤優佳さん、ありがとう。誌面の最後を借りて御礼申しあげます。

写真はいずれも大阪外大同窓会咲耶会の友金守氏が撮影されたものです。（編集部）

○ 外語会海外ツアー

2003年9月にロシアに行きました。参加者は84歳の大先輩から平成卒業のOGまで24名、現地で活躍の同窓の方々、大阪外大同窓の方々との交流もでき、よい旅でした。旅の詳しい報告は40～41頁をご覧下さい。

今年はアメリカ、ミシシッピーの河くだりと東海岸へ、という声がありますが、いかがでしょう。時期は2004年秋を予定して、現在検討をすすめており、会報次号で発表します。